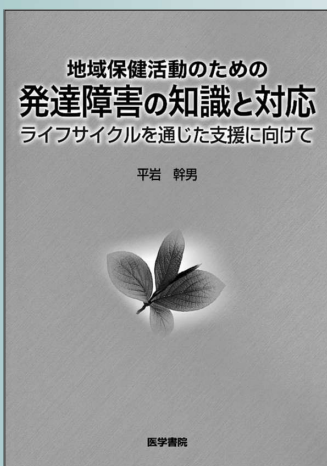


悩める保健師を救う待望の1冊！

【評者】村上香代 北九州市戸畑区役所

地域保健活動のための
発達障害の知識と対応
ライフサイクルを通じた支援に向けて
平岩幹男(著)



定価 2,520 円 (本体 2,400 + 税 5%)
医学書院 (Tel.03-3817-5657)

発達障害をめぐるのは昨今さまざまな報道がなされており、障害そのものは社会的にも認知され始めている。しかし、地域で働く私たちはその対応の困難さから支援に限界を感じることもある。「私たちに何ができるのだろうか?」と思い悩む保健師も多いのではないだろうか。そんなとき、この1冊に出会うことができた。

本書を読み終えた後の率直な感想は、発達障害に“未来、将来”を感じたということだ。厳しい現実も十分理解している。決して楽観視しているわけではない。しかし、温かい感情が心に残った。

本書において著者は、まず発達障害に対する「理解の大切さ」を訴えている。そして、支援者ができることとして、「self-esteemの低下を防ぐこと」「障害を才能へと導くこと」の重要性を繰り返し語っている。これは著者が小児科医、行政官として、また民間での活動をとおしての広い視野と豊富な経験から、常に発達障害児・者に寄り添い学んできたものなのだろう。全編をとおして著者の発達障害児・者、家族を温かく見守る姿勢が貫きとおされている。また、関係機関の役割を深く理解し連携してきたからこそ、絶妙な支援の方法を編み出してこられたのだと思う。

本書は乳幼児期から成人期にかけてライフステージごとにポイントを押さえ、日常生活で遭遇すると考えられる場面設定のなかで、「支援者としてできること」が具体的に記されている。子どもについては乳幼児健診・就学時健診、幼稚園・学校での対応、思春期・成人期においてはいじめや性の問題、就職における面接、障害告知の問題、パートナーにどのように障害を伝えるかなど、大切だがいままで触れられなかったこともきちんと書かれている。ツールの紹介もあり、今日からすぐ使える技や工夫が満載されている。

読み進めていくと、いつの間にか頭のなかがすっきりと整理されている。専門的知識として必要な診断基準や治療についても網羅されており、豊富な事例も掲載され、160ページのなかにエッセンスが凝縮されている。後段では法律の押さえもしてある念の入れようだ。

本書は巻末の「耳を澄ましてください」というセクションで締めくくられている。私たちが障害を理解することの必要性、同じ人間として生きていくことの大切さを本書では最後まで訴えかけてくる。穏やかな語り口調の文章ながら、社会をも動かしていこうとする著者の強い意思が感じられる。私も「何かできるのではないか。いや、何かやらなければ」と思った。示唆に富んだ、勇気を与えられた1冊である。

私たち保健師に著者のエールは届いた。支援者が壁にぶつかったときにも著者の熱い思いが心の支えとなるだろう。悩める支援者の手元にぜひおいてほしい。